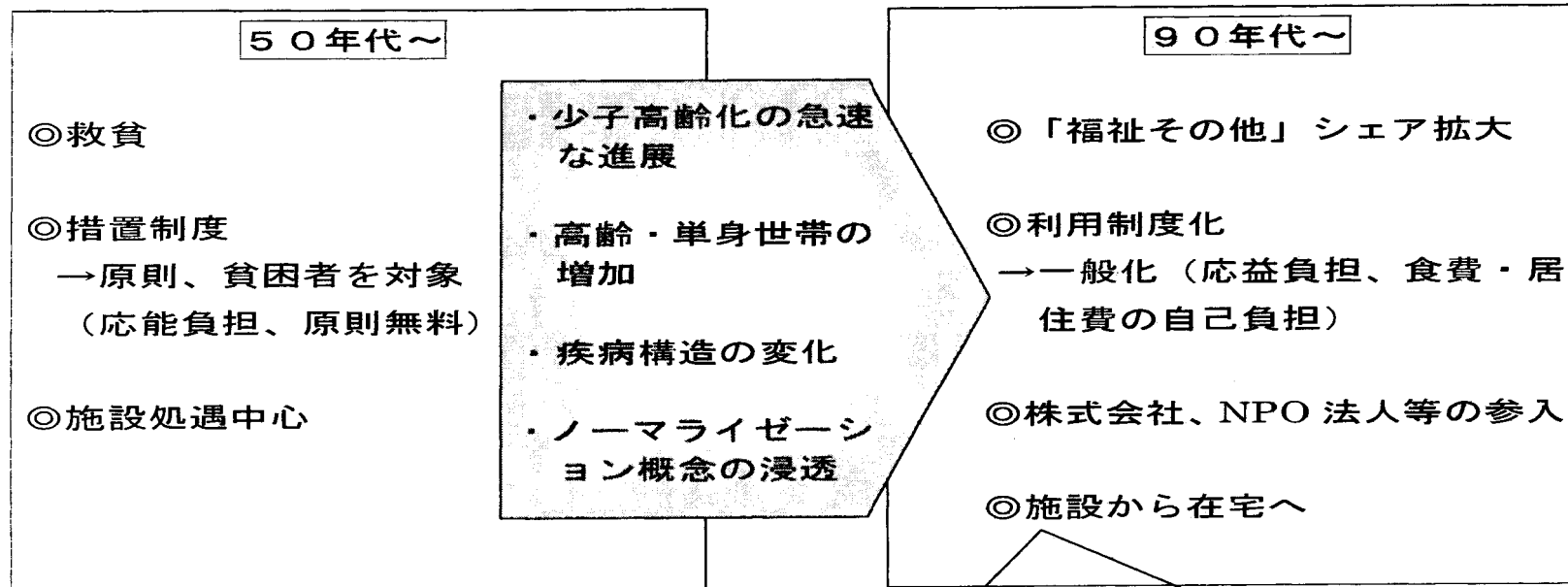


介護ニーズの変化

社会福祉制度の潮流



(高齢者介護・障害者福祉分野のパラダイムの転換)

- 措置から契約へ
 - ・ 低所得者対象→普遍化
 - ・ 応能負担(無料・低額)→応益負担
 - ・ 利用者本位・自己決定・選択
 - ・ 自助と皆で支える部分の整理
- 「地域で普通の暮らし」
 - ・ 施設中心→在宅重視
 - ・ 地域密着、小規模・多機能
 - ・ 自立支援
- 市町村中心
 - ・ 市町村への一元化
 - ・ 基盤の計画的整備
- 新しいサービスの進展
 - ・ 認知症ケア
 - ・ 居住系サービス
 - ・ 個室・ユニットケア

社会福祉の動向

(高齢者介護・障害者福祉を中心に)

- 1963 老人福祉法制定（特養の創設）
- 1973 老人医療費無料化
- 1983 老人保健法制定
- 1987 老人保健施設創設
- 1988 社会福祉士及び介護福祉士法施行
- 1990 福祉8法の改正、ゴールドプラン
- 2000 介護保険法施行
- 2003 支援費制度施行
- 2005 介護保険法見直し、障害者自立支援法制定

求められる介護福祉士像

(「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会」報告書(2006年7月5日)より)

これからの介護福祉士の人材養成における目標。

- ① 尊厳を支えるケアの実践
- ② 現場で必要とされる実践的能力
- ③ 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
- ④ 施設・地域(在宅)を通じた汎用性ある能力
- ⑤ 心理的・社会的支援の重視
- ⑥ 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
- ⑦ 他職種協働によるチームケア
- ⑧ 一人でも基本的な対応ができる
- ⑨ 「個別ケア」の実践
- ⑩ 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
- ⑪ 関連領域の基本的な理解
- ⑫ 高い倫理性の保持